

4)溶存酸素量

一般に水温躍層(水温の水深分布のうち極端にその値が変わる水深個所)が発生する時期では、これより下層において溶存酸素量が低い値を示す事例が報告されている。この現象は、比較的大きな出水時や貯水池の循環期(貯水池の水がかき混ざる秋口から冬場の時期)において解消され、全層にわたりほぼ一様に混ざり合う傾向を示すことになる。

川辺川においても同様の傾向を示すものと想定される。